



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2016年 第2号 (9月)

ニュースレター

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 和泉雄一 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】

春季学術大会関連のご案内 認定資格申請のお知らせ 56th KAP 大会のご案内
各賞・助成等の選考結果と募集 奨学金助成対象者の報告 若手研究者の集い開催報告

歯周治療を取り巻く環境の変化と日本歯周病学会の役割



医療委員会委員長・次期理事長
栗原英見

ガンやリウマチ治療が大きく変貌している。分子標的治療の普及である。薬品名で“○○○マブ”と最後に“マブ”と付いているものが目に付くようになってきた。“マブ”は mAb で monoclonal antibody を意味し、その薬がモノクローナル抗体製剤であることを示している。ヒト型抗体のものから、マウス抗体とヒト型抗体のキメラのものもある。関節リウマチ治療薬の“マブ”には抗 IL-6 抗体や抗 TNF- α 抗体などがあり点滴静注される。IL-6 や TNF- α は歯周炎の病巣局所でも産生されている。新潟大学の吉江弘正教授の研究グループは「関節リウマチと歯周炎との関連の研究」の一環として、これらの分子標的製剤の治療を受けている患者の歯周炎の病態に注目している。また、私どもの領域でも生物活性分子が近々登場するであろう。歯周組織再生を促進する growth factor である。大阪

大学の村上伸也教授の強力で緻密なリーダーシップの下、ここまで辿りついた。まさに歯周治療も生物活性分子の時代の到来である。一方で、本年4月5日に「薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン」が、「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」の名で公表された。薬剤耐性微生物の問題が日本だけの問題ではなく、グローバルな問題としてとらえられ、具体的な対応策が動き出している。「歯周病患者における抗菌療法の方針」の改訂にあたっては配慮が必要であろう。さらに、超高齢化の進展は急速であり、歯周治療が超高齢社会に果たす役割を明確にする必要がある。このように、歯周治療を取り巻く環境が急速に、かつ劇的に変化している。

「日本歯周病学会は何者であるのか？」と考えると、大学で歯周病を専門としている先生方がリーダーシップをとっている学術団体といえる。すなわち、教育機関と研究機関と大規模な病院を背景としてもっている人たちが舵をとっている学会である。歯周治療を取り巻く大きな環境の変化に、日本歯周病学会の果たすべき役割は大きくなっている。「歯周治療の高度化を目指した基礎医学研究の推進」「基礎医学を背景とした精密な臨床研究の展開と日常臨床への反映」「基礎医学を基盤とした臨床教育・研修への転換」はまさに日本歯周病学会の役割である。

鈴木丈一郎先生を偲んで



日本歯周病学会の評議員として学会の運営に長年にわたりご活躍された鶴見大学歯学部臨床教授 鈴木丈一郎先生が、平成 27 年 12 月 17 日に享年 55 歳という若さで永眠されました。

鈴木丈一郎先生は昭和 35 年 11 月 24 日、東京都杉並区でお生まれになり、昭和 60 年 3 月に鶴見大学歯学部をご卒業された後、鶴見大学歯学部第二歯科保存学教室 診療科助手となり、同年 10 月より同教室 助手とられました。平成 9 年から鶴見大学歯学部第二歯科保存学教室 講師に昇任され、平成 24 年 11 月より鶴見大学歯学部歯周病学講座 学内教授とられました。平成 25 年 4 月にご退職されました後は鶴見大学歯学部臨床教授として、引き続き歯周病学講座の発展にご尽力をいただきました。丈一郎先生は入局当時第二歯科保存学教室 助教授でありました新井 高先生に師事され、新井教授ご退職まで右腕としてご活躍されました。もちろん丈一郎先生のライフワークはブラークコントロール・ブラッシングであり、多くの研究業績を発表されたことは周知のことと思います。学生教育において丈一郎先生の指導は厳しく、挨拶といった生活態度からはじまり、あらゆる面で徹底的に指導されておりました。特に学生一人ひとりの行動を詳しく書きとめた『丈一郎ノート』は学生の恐怖の的でありました。しかし、そんな厳しい丈一郎先生を多くの学生が慕い集まってきます。厳しい中にも大きな愛情を注いでいた、丈一郎先生の素晴らしさをいまさらながら感じております。

丈一郎先生は日本歯周病学会をこよなく愛されており、大学卒業とともに入会された後は、体調を崩され入院されるまで一度も休むことなく、すべての学術大会に参加されておりました。日本歯周病学会での丈一郎先生といえば、歯科衛生士関連委員会でのご活躍があるかと思います。認定歯科衛生士の立ち上げから、歯科衛生士の資質向上に誠心誠意尽くされ、数多くの認定歯科衛生士教育講演を行うとともに、認定歯科衛生士試験ケースプレゼンテーションを担当されました。ケースプレゼンテーションでは厳しい試験官として恐れられる一方で、多くの歯科衛生士さんに愛され、学会でいつも沢山の歯科衛生士さんに囲まれて歩く姿を羨ましく眺めていたものです。

丈一郎先生が体調を崩されたのは 14、5 年くらい前だったのでしょうか、日本では初めてといわれる腫瘍が脊髄にできたとのことでした。しかし、丈一郎先生は一切そのことを隠すことなくお話しになり、さらに手術のビデオを教室会で流し解説までされました。手術から 5 年以上が過ぎ、すっかり安心していただけ矢先に転移が起きました。このときも何事もなかったように、転移したので治療で少し休むこともあるかもしれない、隠すことなく客観的に淡々と私たちに話してくれました。この人の精神はどうなっているのだろうか、周りのわれわれのほうが、心が折れそうなことが何度もありました。もちろん本人の心の中は、われわれでは計りしれないほどの葛藤があったに違いありません。しかしいつも前向きに、泣き言一つ言わず進んでいく姿は私たちの心に深く刻み込まれています。

丈一郎先生が愛情を注ぎ込んだ日本歯周病学会、日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会、そして認定歯科衛生士の皆様のますますのご活躍を祈念し、ここに謹んで鈴木丈一郎先生のご冥福をお祈りいたします。

鶴見大学歯学部歯周病学講座
五味一博

第 60 回春季日本歯周病学会学術大会のご案内

平成 29 年 5 月 12 日（金）、13 日（土）の 2 日間にわたって、福岡市の福岡国際会議場において第 60 回春季日本歯周病学会学術大会を開催いたします。会場は、博多駅や市の中心部である天神地区からバスやタクシーで 10 分程度、福岡空港から地下鉄と徒歩で 30 分程度、タクシーで 15 分の好立地にあります。

今大会のメインテーマを「歯周病学の挑戦—サイエンスとヒューマンリティの調和」といたしました。改めていうまでもなく、歯周病学は歯科医学研究の一翼を担ってきた、大変アカデミックな学問分野であります。一方で、臨床に目を向けますと、歯周治療はチーム医療であり、またいち早く認定歯科衛生士制度を導入したことからも明らかなように、たいへんヒューマンリティ溢れる医療でもあります。ただ、学問としての歯周病学と医療の現場における歯周治療が大きく乖離しておれば、学問の成果を十分に臨床に活かすことができません。これからの歯周治療はサイエンスの成果に裏打ちされたヒューマンリティ溢れるものでなければならないとの願いを込め、本大会テーマを設定いたしました。

日本歯周病学会は平成 29 年に設立 60 周年を迎えます。この間、「グラム陰性嫌気性菌病因論の導入」「宿主-寄生物相互作用の概念の導入」「病因論に基づいた歯周症から若年性歯周炎への疾患概念の変遷」「歯周組織再生療法の概念の確立と基礎・臨床研究の実践」「歯周医学の概念の導入と基礎・臨床介入研究の進展」など、既成の概念を凌駕する新たな概念論に基づいた膨大な研究の結果として、おびただしい研究成果が蓄積されました。一方、臨床面に目を向けますと、専門医制度の導入に引き続いて、専門医への登竜門として認定医制度を整備したほか、認定歯科衛生士制度をいち早く導入するなど、チーム医療を実践するうえでのスペシャリストの養成に学会として注力してまいりました。歯周病は感染症でありながら、複数の遺伝要因と環境要因が疾患の発症や進行に影響を与える生活習慣病的な要素も併せもつ疾患であることから、患者さんを含め関係するすべての医療従事者が「共に戦う」という姿勢で臨むことが重要です。すなわち、サイエンスとヒューマンリティが調和してこそ、初めて真に歯周病に立ち向かう環境が整うといえます。

平成 29 年、奇しくも九州大学歯学部は学部創立 50

周年を迎えます。昭和 42 年、九州大学歯学部が創設された当初、保存・補綴・口腔外科の 3 教室でスタートしております。本学術大会を担当いたします私どもの教室（口腔機能修復学講座歯周病学分野）の前身は旧歯科保存学第一講座でありますので、故青野正男先生が昭和 42 年 6 月 1 日に教室を開設されてちょうど 50 周年にあたるという、いわば教室にとっても記念すべき年でもあります。教室からは、日本歯周病学会元理事長の岡田 宏先生をはじめとして、多くの歯周病学研究者・教育者を輩出しています。開設 50 年という教室にとっての節目の年に大会を担当させていただくことを、大変光栄に存じております。

このたびの大会は、日本歯周病学会 60 年の歴史で刻まれた英知をヒューマンリティ溢れる臨床に活かすべく、これまでの歯周病学の発展の歴史を振り返るとともに、これからの歯周病学の一翼を担うであろう若い歯周病研究者や、歯周治療の最前線で活躍するであろう認定歯科衛生士の卵を交え、明日の歯周病学あるいは歯周治療について熱く語る機会としたいと願っております。プログラムもサイエンスとヒューマンリティの調和を念頭に、テーマに沿った形で多彩な講演やシンポジウムを企画しております。特に大会 1 日目の午前中に、直近の理事長経験者の 3 名の先生方（吉江弘正先生、永田俊彦先生、和泉雄一先生）に、鼎談という形で「歯周病学の発展の歴史を語る—時代を切り開いた人物と業績—」とのテーマで、ここ 60 年の歯周病学の発展の歴史を熱く語り合っていたいただきたいと考えております。歯周病学の発展の歴史を次世代に継承することは大変重要な課題です。この 3 名の先生方は、まさにこのテーマに沿った語りをするうえで最も適任の先生方であると考え、講演をお願いしました。また、1 日目の午後には、「歯周病学の未来を担う」とのテーマのもと、優秀な若手研究者、とりわけ学会がサポートしております「若手研究者の集い」で講演され他の参加者から好評であったとの感想をいただいた講演者のなかから選りすぐった方たちにリレー講演をお願いすることで、将来の歯周病学を牽引するであろう若手研究者を鼓舞する場としたいと考えております。さらに、歯科衛生士教育講演では、徳島大学口腔保健学講座の松山美和教授に「サイエンスとヒューマンリティの調和」を念頭に、認定歯科衛生士やその卵を鼓舞する

ような講演をお願いしております。このほか、外国人招聘講演を含む特別講演、臨床シンポジウム、認定医・専門医教育講演、倫理委員会企画公演、衛生士シンポジウム、国際セッション、ランチョンセミナーなど多彩なプログラムを現在鋭意準備中であります。

大会が開催されます5月の連休明けの福岡は、1年を通じて最も気候のいいシーズンでもあります。福岡(博多)は山海の食材が豊富であり、観光客や地元の市民にも人気の飲食店が数多く存在します。近隣には太宰府天満宮や奈良以西で唯一の国立博物館である九州国立博物館、市内には金印が見られることで知られる福岡市博物館や山笠で有名な櫛田神社などの文化的観光スポットがひかえているほか、少し足を延ばせば九州圏内には温泉をはじめとした保養地が数多く点在しております。最近、テレビコマーシャルで一躍有名になりました、沈む夕日を参道から一直線に眺めることができる宮地嶽神社も市の郊外にある歴史ある神社です。大会後、そちらに立ち寄られ日頃の疲れを癒されるのも学会の楽しみの一つではなかろうかと考えます。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後になりますが、昨今福岡市を訪れる観光客やビジネス客の客室不足がたびたび指摘されております。特に、日程が他の大型イベントと重なってしまった場合、宿泊施設の確保は深刻な問題であります。どうか、

宿泊施設の確保は早めに準備くださいますようお願い申し上げます。

事前参加登録期間および参加登録費

平成28年10月26日(水)正午より
平成29年3月31日(金)正午まで

	事前参加登録	当日参加登録
正会員(歯科医師・医師ほか)	5,000円	7,000円
準会員(上記以外)	3,000円	4,000円
非会員(歯科医師・医師)	10,000円	12,000円
非会員(上記以外)	5,000円	7,000円
学生(歯学部・専門学校生)	——	1,000円

演題および抄録登録期間

平成28年10月3日(月)正午より
平成28年12月16日(金)正午まで

詳細は大会ホームページ <http://www.c-linkage.co.jp/jsps60/>よりご確認ください。

第60回春季日本歯周病学会学術大会大会長
九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座
歯周病学分野 西村英紀

第60回春季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター (認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター) 発表申し込みのご案内

学術大会における臨床ポスター(認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター)発表の演題募集は、一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくこととなりますが、受付は下記のWebサイトからのみになりますのでご注意ください。

<http://www.c-linkage.co.jp/jsps60/>(学会ホームページ) <http://www.perio.jp>からも入れます)

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリごとに必ずご確認ください。なおオンラインでの申し込みが不可能な方は、第60回春季日本歯周病学会学術大会運営事務局(FAX: 092-437-4182, E-mail: jsps60@c-linkage.co.jp)までお問い合わせ下さい。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリとも、筆頭発表者が学会認定資格(認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士)を有している必要はありません。また本学会会員以外の方でも発表可能です。ただし非会員が筆頭あるいは共同発表者として含まれる場合は、1名につき5,000円を本学術大会限りの抄録掲載料として申し受けます。また、本学術大会における筆頭発表は1名1演題までといたします。詳細はWebサイトをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

平成28年10月3日(月)正午より
平成28年12月16日(金)正午まで(締切厳守)
※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー

遅延、不具合が起りやすいので、それ以前の早めの時期に登録をお済ませください。

その他、演題申し込み時には登録サイトにて、留意事項を必ずご確認のうえで応募くださいますようご案内申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については発表をお断りすることがあります。**特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認、症例報告の場合は患者の同意を得ていることをポスターに明記する必要がありますので、ご注意下さい。**

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ210cm×幅90cmといたします。表示形式および表記様式、ポスター討論について

の留意事項をWebサイトにてご案内しておりますのでご確認ください。演題番号の個所や顔写真の掲示場所、承認や同意の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されておりますので必ずご確認ください。なお、演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし、なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

本発表は、カテゴリごとに認定医・専門医優秀ポスター賞、ベストハイジニスト賞の選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外となります）。受賞発表および表彰は次回学術大会（第60回秋季日本歯周病学会学術大会）にて行われます。その際、認定医・専門医最優秀・優秀臨床ポスターについては再掲をいたしますので、発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長 坂上竜資

認定医委員会委員長 中島啓介

歯科衛生士関連委員会委員長 澁谷俊昭

認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新、ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。

1. 認定歯科衛生士申請（第24回認定歯科衛生士認定審査）および更新

平成28年10月31日（月）：受付開始

平成28年11月18日（金）：締め切り（消印有効）

平成28年12月中旬：申請および更新に関する書類審査会開催

平成29年2月下旬～3月中旬：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

平成29年5月11日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

平成29年5月12日（金）：第60回春季学術大会時

合格発表

平成29年6月：認定歯科衛生士認定証発行

2. 専門医・指導医申請（第56回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新

平成28年11月28日（月）：受付開始

平成28年12月16日（金）：締め切り（消印有効）

平成29年1月中旬：申請および更新に関する書類審査会開催

平成29年2月中旬～下旬：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催

平成29年5月11日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認

平成29年5月12日（金）：第60回春季学術大会時に合格発表

平成29年6月：専門医・指導医認定証発行

3. 認定医申請（第17回認定医認定審査）および更新

平成 29 年 1 月 10 日 (火) : 受付開始
平成 29 年 1 月 27 日 (金) : 締め切り (消印有効)
平成 29 年 2 月下旬 : 申請および更新に関する書類
審査会開催
平成 29 年 5 月 11 日 (木) : (申請者のみ) 筆記試験
会場 : 福岡国際会議場
申請・更新合格者を理事会で承認
平成 29 年 5 月 12 日 (金) : 第 60 回春季学術大会時
に合格発表
平成 29 年 6 月 : 認定医認定証発行

以上の各資格の申請・更新手続き, 申請書類や規則等については, 学会ホームページ (<http://www.perio.jp>) をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお, 規則・細則は改訂されることがありますので, ホームページにおける申請受付前 1 カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医, 専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は平成 28 年 11 月 28 日 (月)~12 月 16 日 (金) (消印有効) です。申請・更新手続きについては, 学会ホームページ (<http://www.perio.jp>) に記載しておりますので, これに従い手続きを行ってください。

認定医, 専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会, 指導医等主催による任意の研修会について, 研修単位取得対象研修会としての認定をする制度です。申請期間は平成 28 年 11 月 28 日 (月)~12 月 16 日 (金) です。手続きの方法等を学会ホームページ (<http://www.perio.jp>) に記載しておりますので, これに従い手続きを行ってください。平成 29 年 1 月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

The 56th General Session of the Korean Academy of Periodontology のご案内

標記学術大会が下記のとおり開催されます。多くの皆様のご参加をお願いいたします。

開催日 : 平成 28 年 (2016 年) 10 月 22 日~23 日
会場 : The-K Seoul Hotel Convention Center
(ソウル郊外)
参加登録 : 日本歯周病学会事務局にメールで参加者名 (日本語およびローマ字), 所属, 職位, 参加日を 9 月 20 日 (火) までにご連絡ください。

E-mail : gakkai16@kokuhoken.or.jp
(件名は「KAP2016 参加申込」と記載してください)

演題登録 : すでに終了いたしました。

理事長 和泉雄一
国際交流委員会委員長 齋藤 淳



各賞および奨学金助成募集のご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

1. 日本歯周病学会奨励賞 (2016 年度)

奨励賞は、歯周病学の発展に寄与する学術論文を発表した若手研究者を表彰するために、本学会名誉会員見明 清 東京歯科大学名誉教授の寄付金を基金として、1995年に設けられました。ヒューフレディ株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞(奨励賞楯)のほかに副賞(500ドル相当)と楯(Hu-Friedy Award)が贈られます。4名以内が選考されますので、学会ホームページの応募資格(11月1日までに掲載予定)をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/encouragement.shtml>

申請期間：2016年11月1日～12月16日

2. 日本歯周病学会教育賞 (2016 年度)

教育賞は、歯周病学教育の発展に寄与した課題を表彰することを目的としております。表彰対象は、歯周病学の教育の発展に寄与する課題です。応募資格は、課題代表者が本学会の会員であること、過去に本賞を受けたことがないことが条件です。なお、本賞は副賞として医歯薬出版株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(表彰状)のほかに、副賞(5万円)が贈られます。学会ホームページの応募要項(11月1日までに掲載予定)をご確認のうえ、奮ってご応募ください。なお本賞は応募を郵送で受け付けます。

<http://www.perio.jp/member/award/education.shtml>

申請期間：2016年11月1日～12月16日

3. 奨学金助成 (2016 年度募集 2017 年度実施)

日本歯周病学会は、次世代の歯周病学研究の質の向上を支援するために、若手研究者に対する奨学金助成を行います。本奨学金は、本学会が2011年度から基金として準備し、2013年度に設置されたものです。助成者は、申請者から2名以内(1件の上限は100万円)が選考されます。応募の条件が定められていますので、学会ホームページの規程(11月1日までに掲載予定)をご一読のうえ、若手研究者の皆様には奮ってご応募

ください。

<http://www.perio.jp/member/award/scholarship.shtml>

申請期間：2016年11月1日～12月16日

4. Young Investigator Award (2017 年度)

本賞は、学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としております。表彰対象は、本学会当該年度の日本歯周病学会 Young Investigator Award に応募し、学術大会に発表された口頭発表とします。本賞は副賞としてサンスター株式会社のスポンサーシップを得ており、受賞者には本賞(賞状)のほかに、副賞(Sunstar Award)と賞金が贈られます。応募の条件が規定されていますので、学会ホームページの応募資格(2017年2月1日までに掲載予定)をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/young.shtml>

申請期間：2017年2月1日～3月3日

5. 歯科衛生士教育講演会

平成28年11月20日に山梨にて開催決定いたしました。

詳細はホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

6. 臨床研修会

平成28年1月31日に熊本県熊本市で、4月10日には栃木県宇都宮市で、さらに7月3日には島根県松江市において当研修会を開催いたしました。いずれも盛会にて終了しましたことをご報告いたします。

なお、平成29年3月5日には大分市において開催を予定しており、鋭意準備中ですので会員の皆様のご来会をお待ちしております。

詳細は決定次第、ホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

各賞・助成選考結果

各賞・助成の概要につきましては、学会ホームページに掲載しております。なお対象者および受賞者の所属は、選考・受賞時のものです。

学会賞 (2015年度)

受賞者氏名は以下のとおりです。

川浪雅光

(北海道大学大学院歯学研究科
歯周・歯内療法学教室教授)



丸山緑子

(東京医科歯科大学歯周病学分
野)

Intraindividual variation in core
microbiota in peri-implantitis
and periodontitis
(Scientific Reports)



田中昭男

(大阪歯科大学口腔病理学講座
教授)



柏井 桂

(広島大学歯周病態学)

Distinction between cell prolifer-
ation and apoptosis signals
regulated by brain-derived
neurotrophic factor in human
periodontal ligament cells and
gingival epithelial cells
(Journal of Cellular Biochemistry)



宮田 隆

(特) 歯科医学教育国際支援機
構理事長)



清水伸太郎

(北海道医療大学歯周歯内治療
学分野)

A Genome-wide Association
Study of Periodontitis in a
Japanese Population
(Journal of Dental Research)



奨励賞 (2015年度)

受賞者氏名と応募論文題目 (発表誌名) は以下のと
おりです。

前川知樹

(新潟大学高度口腔機能教育研
究センター)

Antagonistic effects of IL-17
and D-resolvins on endothelial
Del-1 expression through a
GSK-3 β -C/EBP β pathway
(Nature Communications)



教育賞 (2015年度)

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

鶴飼 孝

(長崎大学病院歯周病治療室)

「ペリオ模型を用いたスケーリ
ング・ルートプレーニング時の
歯肉縁下へのアクセス状態の検
討」



優秀臨床ポスター賞（第58回秋季学術大会）

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

最優秀ポスター賞

平山富興

（大阪・須沢歯科・矯正歯科）
「重度慢性歯周炎患者に包括的治療を行った一症例」



研究者育成ファンドによる奨学金助成

対象者氏名は以下のとおりです。

尾崎友輝

（松本歯科大学大学院歯学独立研究科・健康増進口腔科学講座・口腔健康分析学）



優秀ポスター賞

岡田豊一

（奈良・医療法人岡田会おかだ歯科医院）
「臼歯部咬合崩壊を伴う広汎型重度慢性歯周炎患者に対し包括的治療を行った10年経過症例」



山川真宏

（広島大学病院歯周診療科）



ベストハイジニスト賞（第58回秋季学術大会）

受賞者と受賞演題は以下のとおりです。

石原彰子

（医療法人 QOL ファミール歯科）
「歯周基本治療により改善した広汎型重度慢性歯周炎患者の一症例」



研究者育成ファンドによる奨学金助成対象者の報告

池田裕一（University of Toronto Faculty of Dentistry Matrix Dynamics Droup）

助成期間：平成27年6月1日～平成28年3月31日

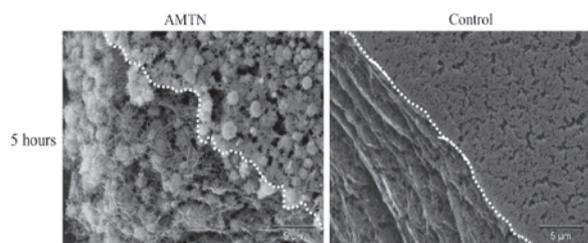
1. はじめに

アモロチン（AMTN）はエナメル質形成の成熟期にエナメル質とアメロブラストの境界に、また接合上皮に特異的に発現するタンパク質である。AMTN KOマウスがエナメル質形成不全を呈すること、AMTN

強発現マウスでは排列の乱れたハイドロキシアパタイト（HA）がみられることから、エナメル質のHAの石灰化に重要な役割を果たしていると考えられている。最近になり、AMTNがHAと高い結合親和性をもつこと、HAの沈着を短時間で促すことが明らかになった。このAMTNを歯科領域での再生治療に応用するため、コラーゲンマトリックス内でのAMTNの石灰化について検討を行った。

2. 実験概要

まず、①AMTNを添加したコラーゲンハイドロゲ



ルをガラススライド上に滴下し、37°C 湿潤条件下で一晩放置しゲル化させたもの、②象牙質切片の上に AMTN を塗布し乾燥させたもの、③コラーゲンメンブレンに AMTN を添加したもの、を用意した。サンプル作成後、石灰化バッファー (SBF Buffer) に浸し、37°C で 5~24 時間サンプルを培養した。固定後、臨界点乾燥装置を用いてサンプルを乾燥し、走査型電子顕微鏡で観察を行った。

3. 結果

① コラーゲンハイドロゲル (図) およびコラーゲンメンブレンに AMTN を添加することで、培養開始から 5 時間後に HA の結晶の沈着が認められた。

② 象牙質切片の上に AMTN を塗布することで、象牙質表面に石灰化物の沈着がみられた。

4. まとめ

AMTN は *in vitro* のコラーゲンマトリックス内で、HA の結晶形成を誘導した。現在、動物を用いた *in vivo* での石灰化特性の検討、AMTN 以外のエナメルタンパク質を用いた石灰化の検討を行っている。

平井公人 (The Forsyth Institute Immunology and Infectious Diseases)

助成期間：平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

平成 26 年 1 月より母校である岡山大学を離れ、米国マサチューセッツ州のボストン近郊にあります Forsyth Institute に所属し研究を行ってきました。Forsyth では、PI の佐々木 元先生の下でマクロファージ・好中球・骨のリモデリングなどを中心に、免疫学の研究を行っております。大学院では主に細菌の研究を行っていましたが、今後、歯周病の研究を進めていくうえで免疫学的手法も学びたい、また海外での研究生生活を通して国際的な研究者として成長したいと考え、留学にいたりました。平成 27 年度には歯周病学会からの奨学金助成をいただくことができ、引き

続き Forsyth で研究を行うことができました。ここに助成期間における研究成果の概要を報告させていただきます。

本研究課題は「HIF-1 α の制御が歯周組織の免疫応答ならびに骨のリモデリングに与える影響」とし、研究を行ってきました。炎症部位では、免疫細胞などの浸潤や代謝の亢進などによって栄養や酸素が消費されてしまうため、低酸素状態が引き起こされます。こういった低酸素に対する細胞の適応応答で中心的な役割を果たす転写因子が低酸素誘導性因子-1 α (hypoxia-inducible factor-1 α : HIF-1 α) です。HIF-1 α は通常酸素分圧では容易に分解されてしまうため、本研究では dimethylloxaloylglycine (DMOG; HIF-1 α 分解抑制)、もしくは、通常酸素分圧でも分解されないように改変した CA-HIF-1 α を過剰発現できるアデノウイルス (Ad-CA-HIF1 α) を用いて、HIF-1 α を活性化させ、炎症局所において HIF-1 α がマクロファージおよび骨のリモデリングにどのような影響を与えているかを検証しました。

野生型マウス (C57BL/6J) から採取した腹腔内マクロファージに対して DMOG 添加または、Ad-CA-HIF1 α 感染群はコントロール群に比較して、LPS によるサイトカイン (IL-1 α , IL-1 β , TNF- α) の誘導を有意に抑制しました。また NF- κ B 関連遺伝子の発現も低下させました。DMOG 添加群は、M1 型マクロファージのマーカーである CD80 の発現を抑制することことがわかりました (FACS)。

C57BL/6J から採取した骨髓細胞由来のマクロファージに対して DMOG を添加した群は、破骨細胞への分化 (3 核以上の細胞数) を抑制しました。また、同実験において TRAP, cathepsin-K, DC-STAMP の遺伝子発現を低下させました。

これらの結果から、HIF-1 α の活性化はマクロファージの炎症応答を抑制し、マクロファージの炎症性の M1 型から抗炎症性の M2 型への変化に関与していること、さらに破骨細胞は HIF-1 α の活性化により成熟した多核の破骨細胞への分化を抑制することが示唆されました。

当研究室で行ったマウスを用いた慢性根尖性歯周炎モデルにおいても、DMOG または Ad-CA-HIF1 α を用いた HIF-1 α の活性化は根尖病変の進展を抑制し、抗炎症的に作用している結果が得られています。これらの結果から、HIF-1 の活性化が歯周病の制御において有望な治療標的であることが示唆されました。

留学に際し、また本助成金申請にあたり、多くの先

生に御助力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。これまでの留学期間中に、今回の研究以外にもいくつかのプロジェクトに参加させてもらい多くの経験をさせていただきました。日々の研究の相談から英語での申請書の書き方など、いつも指導いただいていますPIの佐々木 元先生には深く感謝申

し上げます。今後の留学生活を通して、歯周病研究の知識や経験を深めることにとどまらず、国際的なトレンドを掴み、海外の研究者と英語で誤解なくコミュニケーションをとることができるようになり、国際的な視野に立つ研究者として成長できるように努力していきたいと思えます。

第49回 若手研究者の集い開催報告

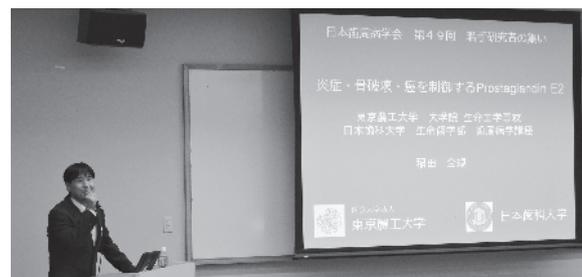
第59回春季日本歯周病学会開催にあたり、若手研究者の集いを5月19日、かごしま県民交流センターにて開催いたしました。講師として、東京農工大学大学院生命工学専攻の稲田全規准教授をお迎えし、「炎症・骨破壊・癌を制御するProstaglandin E₂」と題した講演をしていただきました。

稲田先生は、日本歯科大学歯学部大学院歯学研究科歯周病学専攻に入学し、鴨井久一主任教授（当時）と昭和大学口腔生化学講座 須田立雄教授（当時）の指導の下、学位論文として‘Bone morphogenetic protein-12 and -13 inhibit terminal differentiation of myoblasts, but do not induce their differentiation into osteoblasts’を修め、学位取得後、ヒューマンサイエンス振興財団博士研究員を経て、ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院に勤務されております。米国時代は、ハーバード大学医学部内に自身の研究室を主宰し、助手・講師・訪問研究員として10年間以上にわたり第一線で活躍しながら、東京薬科大学、そして現在の東京農工大学准教授として現在にいたっております。

稲田先生は、大学院生時代から現在まで一貫して骨の研究に従事し、キーワードとしてPGE₂が常に存在しております。本研修会では、大学院生時代、米国時

代、東京薬科大学時代、そして現在にいたるまで、PGE₂を用いて、研究開始の動機・転機・継続・展望を点と線で結び解説なされました。このように、稲田先生の研究は、骨・PGE₂をキーワードとした基礎研究が主眼ですが、その礎は鴨井教授門下の大学院生時代の歯周病学が基礎となっております。特筆すべきは、臨床での疑問に対する回答を基礎の手法を用いて解決しているところにあり、本研修会での講演内容はすべて論文化した稲田先生オリジナルのデータを用いていることにあります。

ディスカッションでは、若手研究者の集いらしく、「研究に対する挫折のなか、リサーチマインドをいかに維持するか？」や「一連のPGE₂の基礎的研究成果



を臨床にいかに関与バックするのか？」などの質問がされ、稲田先生には丁寧に自分の経験談を踏まえて回答していただきました。また、大学院生時代の研究メンバーが、現在も所属は異なるものの共同プロジェクトを推進していることを述べられ、一期一会といった人とのつながりの重要性を強調されました。このように、若い時代から培われてきた経験と人脈は稲田先生の財産となり、現在は自身の研究室に所属する大学院生を海外へ研究留学させ、その人脈の拡大と経験を次世代の研究者に受け継いでおられることとお話しになりました。

研究離れと囁かれている昨今、次世代を担う若手が、集いを通して、リサーチマインドを向上させる起爆剤になればと思います。おかげさまで、各大学からの多数の参加者により盛会裏に閉会いたしました。最後に、ご協力をいただきました関係各位および大会長 野口和行教授、準備委員長 白方良典先生に謝意を表します。

世話人 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座

伊藤 弘

編集後記

本年も慌ただしく半年が過ぎ、残すところ4カ月余りとなりました。この残されたわずかな期間にも、アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会がカリフォルニア州サンディエゴで開催され、さらに平成最後の開催となるかもしれない第59回秋季日本歯周病学会学術大会が新潟県新潟市で開催される予定です。両大会とも詳細は、ニュースレター2016年第1号にすでに紹介されております。ぜひ多くの会員の皆様にも再度ご確認ください、ニュースレターに馴染んでいただけるようお願い申し上げます。

さて今回お届けする第2号では、五味一博先生から寄せられた鶴見大学歯学部臨床教授の鈴木丈一郎先生の追悼文を掲載しております。同じ年代で学会活動をともにされてきた先生にとっては、早い別れに心痛まれておられることと拝察いたします。心からご冥福をお祈りいたします。

学術大会の案内は、福岡で開催予定の第60回春季日本歯周病学会学術大会について大会長の西村英紀先生から、2016年大韓歯周病学会（ソウル郊外）について和泉雄一理事長と国際交流委員会委員長の齋藤 淳先生からご紹介いただいております。本年10月のソウル、来年5月の福岡、12月の60周年記念大会（京都）と、しばらくの間学術大会が西寄りの都市で開催されます。東寄りにお住いの会員の皆様には、早い時期から学会の参加に向けた計画をされますようお願いいたします。また、各賞および奨学金助成募集の案内についても掲載しております。多くの会員の応募をお待ちするとともに、各賞を受賞、または助成に選考された先生にお祝い申し上げます。

夏の猛暑ももう少しの我慢で乗り切れそうな今日この頃、暑さとリオのオリンピックの応援で寝不足が続いている会員も多くおられることと思います。ふと思うに、はたして次に開催される4年後の東京オリンピックの頃の歯周病の治療・研究・教育、はたまた本会はどのようになっているのでしょうか。会員一丸となって盛り上げていきましょう。

(広報委員会副委員長 佐藤 聡)